

水嶋隆裕さん(左・2年目)や小針敬之さん(右・10年目)など、活況を呈する養鯉業界には若者が多い。



さかなクンが若い生産者にエール!「愛情と情熱がすギョい!」

「こんなにいっぱい錦鯉ちゃんを見たのは初めてです」。小千谷市の大日養鯉場の越冬用ハウスを訪れたさかなクン。水槽の一つ一つをのぞき込み、社員に質問をしてはメモを取っていました。小針敬之さんが「他の生産地では1年中屋内のコンクリート池で管理する

ところもありますが、新潟は山の野池に放ちます。夏は自然の中でのびのびと育てるんですよ」というと、2年目の水嶋隆裕さんが、すかさず「夏の間、毎日いくつもの池を巡って管理するんですよ。思いっきりアウトドアな仕事です」と笑います。「愛情と情熱がいっぱい込めら

れているから、錦鯉ちゃんたちも優しいお顔をしているのでギョざいますね〜♪」と、納得するさかなクン。

主に品評会出品用の錦鯉を担当する小針さんの目標は「全日本錦鯉品評会の総合優勝。前は2位だったので」。カナダへの留学

経験がある水嶋さんは、錦鯉をさらに世界にアピールすることを目指しています。「ギョギョ、スケールが大きい! これからも日本の宝物の錦鯉ちゃんをよろしくお願致します」。



錦鯉は伝統が作り上げた「宝」大切に受け継いでください!

錦鯉は愛されるために生まれてきたお魚です。そして、平和の象徴です。県の鑑賞魚として、錦鯉ちゃんたちの魅力をもっと自慢して、もっと発信していきましょう。新潟おさかな大使として、そのお手伝いをしたいと存じます。今日は錦鯉ちゃんを見たり抱いたりでき、詳しいお話も聞けて、すギョく勉強になりました。



Profile

さかなクン

国立大学法人 東京海洋大学
名誉博士・客員准教授

お魚の情報や正しい知識、美味しい食べ方や環境問題、漁業従事者の皆さまとともに明日の漁業を考えて頂くために、全国各地で講演。平成19年9月には中越沖地震をきっかけに、「新潟おさかな大使」に就任。以降、平成20年の全国豊かな海づくり大会への参加など、継続して新潟県の水産振興に多くのサポートをしています。

錦鯉のミュージアム「小千谷市錦鯉の里」

屋内の鑑賞池、屋外の日本庭園の池で、15品種200尾の錦鯉が鑑賞でき、餌やり体験もできます。資料展示コーナーもあり、発祥からの歴史や錦鯉の種類について学べます。



住所 / 小千谷市城内1-8-22
電話番号 / 0258-83-2233
営業時間 / 9時~18時
(12~2月は17時まで)
定休日 / なし(臨時休館あり)
駐車場 / 70台
料金 / 大人510円、小学生300円

